

みなさまの身近に視覚と聴覚の両方に障害のある

「盲ろうづ」のお子さんはいらっしやいませんか

たとえば、このようなお子さんは
いらっしやいませんか？

- まぶしがる様子もないし、音も聞こえていないのでは
- 目の前の物は見えるけれど、近くで声をかけたり、音を出したりしても反応しない
- 耳元で大きな声で話せばわかるけれど、人や物も見えていないのでは
- 大きな声や音ならわかるけれど、普通の声の大きさと話しかけても聞こえていない様子で、誰か来たのはわかってても、顔はよく見えていないようだ





視覚と聴覚の両方に障害を有する「盲ろう」と聞いて、思い浮かぶのは、ヘレン・ケラーでしょうか。

平成 29 年度に本研究所で実施した「特別支援学校における盲ろう幼児児童生徒の実態調査」において、315 名の盲ろう幼児児童生徒を特定しました。調査の中では、視覚障害、聴覚障害、知的障害、肢体不自由、病弱、知的・肢体不自由併設など各障害種の特別支援学校に在籍していること、8 割以上の幼児児童生徒が視覚障害と聴覚障害の他にも、知的障害、肢体不自由など他の障害を併せ有していることもわかりました。

詳細については、こちらをご覧ください。 <http://nc.nise.go.jp/news/2018/0726>

盲ろうの子どもたちのコミュニケーションは、お子さんの表情やしぐさから読み取って関わる段階から、実物の提示、身振りサイン、手話の形を触って読み取る「触手話」、指文字の形を触って読み取る「触指文字」、点字、話しことばなど多彩で多様です。

「障害者の権利に関する条約」第24条教育では、以下のように明記されています。

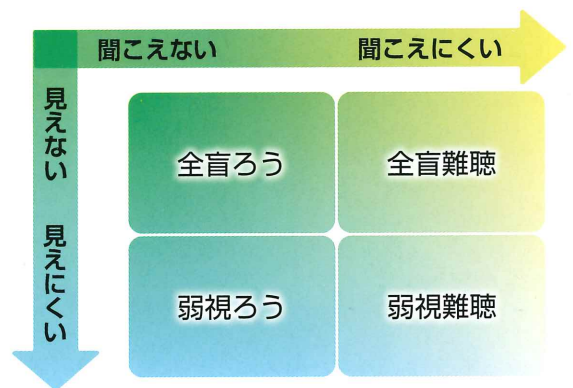
盲人、聾者又は盲聾者（特に盲人、聾者又は盲聾者である児童）の教育が、その個人にとって最も適当な言語並びに意思疎通の形態及び手段で、かつ、学問的及び社会的な発達を最大にする環境において行われることを確保すること。
(政府公定訳)

1 盲ろうとは

視覚と聴覚の両方に障害を有する状態を「盲ろう」と言いますが、その障害の状態や程度は様々です。見え方と聞こえ方の組み合わせによって、全く見えず聞こえない状態の「全盲ろう」、全く見えず聞こえにくい状態の「全盲難聴」、見えにくく聞こえない状態の「弱視ろう」、見えにくく聞こえにくい状態の「弱視難聴」という4つのタイプに大別されます。

一人一人の見え方、聞こえ方もさまざまですが、盲ろうになる原因もさまざまです。以下に代表的な原因をあげます。

- ・アッシュャー症候群
- ・未熟児
- ・先天性風疹症候群
- ・CHARGE 症候群
- ・サイトメガロウィルス感染症
- ・ダウン症候群
- ・事故
- ・髄膜炎



2 どんな困難性があるのか？

1 情報を得ることの難しさ

私たちはほとんどの情報を視覚と聴覚から得ています。しかも、何気なく目や耳に飛び込んでくる大量で広範囲の鮮明な情報を意識せずに行うことができますが、盲ろうの子どもたちは、その大部分が得られません。盲ろうの子どもたちが得られる情報は、直接触れるか、保有する視覚と聴覚で把握できる限られた範囲にある不鮮明な情報に限られます。これらの情報は、一度に取り入れられる情報量が極めて少なく、複数の情報の同時処理が困難なため、情報相互の関係性・因果関係、全体像の把握に多大な困難さを有しています。

2 認識の難しさ

子どもは、乳幼児期から養育者の表情を見て、声を聞き、やりとりをし、感情の交流をしていく中で、世界を拡張し、さまざまな知識を育てていきますが、盲ろうの子どもたちは、音と光が失われた、あるいはほとんど届かない世界の中で、認識を育てていくことに困難さがあります。人や物に名前があること、ひとつの概念を獲得するまでに意図的な働きかけと多くの時間が必要とされます。

3 コミュニケーションをとることの難しさ

見ること、聞くことに困難さがあるため、音声言語、手話、指文字などのコミュニケーション手段を獲得することに難しさが生じ、身振りサイン、触手話など、一人一人のコミュニケーション手段を獲得するまでに系統的な働きかけと多くの時間を必要とします。

日常生活の繰り返しの中で、相手の伝えようとしていることを受け止めること、自分の思いを伝えること、そして、双方向のコミュニケーションをとるまでには、系統的な働きかけと時間を要します。

4 移動することの難しさ

空間を把握すること、行きたい時に、行きたい所に行くことの難しさがあります。



盲ろうの子どもたちに関わる時に 大切にしたいこと

1 | まずは、人間関係をつくり、 心理的な安定を図りましょう

声や音、光も届かない、届きにくい世界の中にいる盲ろうの子どもたちにとって、人の存在こそが外の世界に繋がる窓口です。まずは、安心できる関係性づくりが大切です。そして、積極的に子どもの感情を受け止め、感情を伝え、「楽しいね」「悔しい」といった感情を共有していきましょう。

2 | 実際の体験を 積み上げていきましょう

視覚と聴覚からの情報が入らない、入りにくい中で、得られる情報が限られている、絶対的な経験の乏しさがあります。そのため、概念形成の基盤となる実体験を積みあげていくことを大切にしていきたいと思います。体験してはじめて、周囲で起きていることが理解できます。

3 | 子どもの障害の状態に応じた方法で 情報を提示しましょう

視覚と聴覚の状態に応じて、触覚や嗅覚を活用するなど、わかる方法で、必要な情報をわかりやすく一貫して伝えることが大切です。そして、物事の因果関係の理解が進み、行動の切り替えが納得しやすいように、「どうしてそうするのか」の理由も伝えるようにしましょう。

先天性の盲ろうの子どもたちは、サインや言語によるコミュニケーションがまだ難しい子どもたちがかなりの割合を占めていると推測されますが、その子どもたちにわかる方法での提示を考えていきましょう。

たとえば・

① ネームサインの活用

自分が誰なのか、名前の印や合図を決めて、必ずそれを使って子どもに名乗ることが大切です。誰が来たのか、特定できる情報を提供しましょう。個人を特定する物(たとえば、タオル地のアームバンド、ビーズの腕輪、ふわふわの髪飾り、色鮮やかなエプロンなど)を身につけて、判別できるように心がけましょう。決まった物や香り人と結びつくように、いつも同じ物にしましょう。そして、そばにいるのかいないのかわからないので、そばに来たことをきちんと伝え、そばを離れる時は離れることも伝えましょう。



ネームサインの例

② オブジェクトキューや スケジュールボックスの活用

見通しをもって、安心して活動するために、次の活動や行く場所をかならず予告しましょう。活動の予告、一日の見通しとして、その活動を象徴する物(オブジェクトキュー)やスケジュールボックスを活用します。オブジェクトキューは、子どもにとって、活動をイメージしやすい物を使用します。



スケジュールボックスの一例

4 | 活動の始まりと終わりを明確に、 なるべく活動の全過程に関わるようにしましょう

いつ始まり、いつ終わったのかが分かりにくいので、それが明確に分かるように、はっきりした合図を決めて子どもに伝えましょう。活動の準備と後片づけをすることは、始まりと終わりの予告にもなります。

そして、一緒に何でも取り組みましょう。自分で体験してはじめて、周りで起きていることが理解できます。その時に、「いや」「やりたくない」も選択肢の一つであり、そこがコミュニケーションの糸口にもなります。

5 | 子どもにとって「意味のある」 興味関心のあることから出発しましょう


視覚と聴覚からの限られた情報と経験の圧倒的な乏しさから、当然、知っているであろうことを知らない、ということが生じ、興味関心も限られてきます。その興味関心を意図的に学習につなげていきましょう。子どもたちが、意欲をもって学習に取り組めるようにしていくことが大切なことです。



本研究所では、「盲ろう」に関する研究及び研究成果に基づく以下の情報提供等を行っています。

1. 盲ろうの子どもたちの教育に必要な情報の提供
2. 盲ろう幼児児童生徒の教育に関わる教員等の研修会
3. 盲ろうのお子さんをもつ保護者への情報提供と交流

●「盲ろう教育」に関する研究成果・情報の紹介

- ・国立特別支援教育総合研究所 HP 「視覚障害と聴覚障害との重複障害児の指導の実際」
<http://www.nise.go.jp/cms/13,978,50,208.html>
- ・国立特別支援教育総合研究所 専門研究 B「盲ろう教育における教員の専門性向上のための研究」
(平成 19 年度～ 20 年度) 研究成果報告書
<https://www.nise.go.jp/cms/resources/content/7412/b-237.pdf>
- ・国立特殊教育研究所研究紀要 28「盲ろう児のコミュニケーション方法 一分類と体系化の試みー」
<http://www.nise.go.jp/kenshuka/iosa/kankobutsu/kiyo28/nakazawa.pdf>
- ・全国盲ろう教育研究会 HP 
<http://www.re-deafblind.net/>

盲ろうの子どもたちの教育についてのお問い合わせや相談は以下にお願いいたします。

国立特別支援教育総合研究所 重複障害班 星 祐子

電話：046-839-6844 FAX:046-839-6909 E-mail：hoshi@nise.go.jp

【発行】



独立行政法人

国立特別支援教育総合研究所

〒239-8585 神奈川県横須賀市野比 5-1-1

TEL：046-839-6803 FAX：046-839-6918

<http://www.nise.go.jp/cms/>



*本パンフレットの発行にあたり、一般財団法人柳井正財団の助成をいただきました。

